

[1]

[2] AN/AAQ-28 LITENING- II ターゲティング・ポッド使用訓練へようこそ。

高度と方位を維持するようオートパイロットを入れておいた。速度に注意し、ミッション中 200kts 以上を維持するようスロットルを管理してくれ。

[3] ターゲティング・ポッドは昼夜間問わず、長距離からの有視界索敵、火器発射のための目標認識を可能にする。LITENING- II は次の 3 つのライブ・ビデオ・モードを備えている：チャージド・カップルド・デバイス略して CCD、ホワイトホット及びブラックホット・フォワードルッキング・インフラレッド（FLIR）。また、別のソースから地上及び空中においてレーザーによる認識追尾を行う、レーザー・スポット・サーチ（LSS）、レーザー・スポット・トラック（LST）モードという機能も持つ。

OSB-2 を押して A-G（Air to Ground）ページを見てみよう。

[4] TGP が A-G モードになり映像を映すようになった。TGP を SOI にするため、HOTAS クーリーハット RIGHT コマンドか K を長押ししろ。

[5] TGP ディスプレイの主な特徴をざっと見ていこう。

ディスプレイの中央はクロスヘアとブラケット（括弧）が占めている。ブラケットはナロー・フィールド・オブ・ビュー（NFOV）モード時の視野範囲を示している。クロスヘアの右隣にあるのはヤードスティックだ。これはクロスヘアの右半分が覆っているの地表面の距離を示している。右下のコーナーにあるのは、クロスヘア中心までの直線距離だ。右上のコーナーにある、地面に張り付いたようなノース・アローは、北の方角を示している。

次に進んでよければ SPACE BAR を押してくれ。

[6] ディスプレイのさらに端を見回してみると、左上のコーナーに現在の視野とズーム・レベルが示されている。OSB-1 から 4 までは TGP のページを選択するものだ。右上のコーナーには現在のビデオ・モードが表示されている。OSB-6 は LSS モードを入れる。OSB-7 はレーザー、IR ポインター、両認識モードを選択する。ディスプレイ下には現在の座標位置が示されている。最後に、左下のコーナーにはアディチュード・レファレンス・シンボル [姿勢参照シンボル] と時計が示されている。

OSB-1 を押して CNTL（Control）ページに入り、追加選択にアクセスしよう。

[7]

[8] ディスプレイ右側から順にいくと、OSB-7は現在の位置表示を緯度経度、MGRS座標システムから選択する。OSB-8はLATCH ON、OFFモードを選択する。LATCH OFFモードでは、HOTASピンキーボタンを押すことによってマニュアルでレーザー照射を行う際、ボタンが押されている間だけ照射される。LATCH ONモードでは、ボタンが押されるごとにレーザーのオン・オフが切り替わる。誘導兵器はデフォルト・プロファイルではオートマティック・レーザー・オペレーションに設定される。OSB-9はヤードスティックをMETRIC、US、OFFから選択する。OSB-17と18はUFCを使ってレーザー・デジグネターやLSSモードにレーザー・コードを入力するのに使われる。最後に、OSB-20はアドバイザリー・アラート・アルティチュードを入力するのに使われる。

OSB-1を押してA-Gメイン・ページに戻ろう。

[9]

[10] オーケー、ここからはお楽しみの時間だ。ポッドを動きまわしてみろ。HOTASスルー・コントロール・スイッチか、「;」「,」「.」「/」キーを使って、ライン・オブ・サイト〔視線〕(LOS)を左右どちらかに下げろ。HUDとTADディスプレイを見るとTGP LOSダイヤモンドが動き、見ている地表の位置を示しているのが分かる。TADディスプレイをズームアウトしないと、TGPダイヤモンドが見えないかもしれない。

さらに、TGPディスプレイのシチュエーション・アウェアネス・キュー（小さな四角の点）をみてくれ。このキューはTGP LOSが機首からどのくらい左右にをずれているか、どのくらい見下ろしているかを示している。

[11]

[12] 動かすの止めたとき、TGPがAREAトラッキング・モードになることに注目してくれ。このモードでは、ポッドは個々の物体ではなく、エリア全体の画像を追跡している。HOTAS TMS UP（ショート）コマンドか、左CTRL+↑を押して、これをPOINTトラッキング・モードに変えてみよう。

[13] POINTトラッキング・モードでは、ポッドは移動しているものを含む特定の物体を追跡する。

目標が物陰に隠れたり、ライン・オブ・サイトが移って追跡が途絶えた場合は、AREA、POINTトラッキング・モードは終了し、それぞれINR (Inertial [慣性]) A、INR Pモードに切り替わる。

次に進んでよければSPACE BARを押してくれ。

[14] A-10Cのアップグレードによって最も優位性が増した点の一つは、アビオニクス類が統合され、パイロットが目標を離れた場所から即座に発見・認識・追跡し、精密爆撃できるようになったことだ。近くにいくつかターゲットがあるウェイポイント4を私が設定しておいたから、TGPの追加機能を試してみよう。UFC STEER ロッカーキーを使ってウェイポイント4をステアポイントに設定しろ。

[15] HOTAS チャイナハット AFT（ロング）か、C を押すと、TGP が自動でステアポイントに照準を合わせる。大きな X 字の目標範囲が見えたはずだ。

[16] HOTAS チャイナハット FORWARD（ショート）コマンドか、V を押して TGP をナロー FOV に設定しろ。

[17] 映像をズームすることもできる。HOTAS DMS UP コマンドか、HOME キーを長押ししてターゲットにズームしろ。

[18] HOTAS ボートスイッチ FORWARD コマンドか、右 ALT+→を押して FLIR BHOT（black-hot）ビデオモードに設定しろ。HOTAS ボートスイッチ AFT コマンドか、右 ALT+←を押してホワイトホット・モードすることもできる。

[19] ターゲットを一つ選んで、AREA もしくは POINT トラックを開始しろ。

TGP ディスプレイのクロスヘアの下「M」の表示は、障害物が遮っていることを示している。この場合は追跡は不可能だろう。これが起こったときは、機首をよりターゲットの上空に近づける必要がある。

[20] HOTAS TMS UP（ロング）コマンドか、左 CTRL+↑を押して、このポイントを新しい SPI にすることができる。この機能はマーヴェリックを積んでいるときは非常に 便利だ。SPI にすべての照準を合わせるようコマンドすれば、マーヴェリックも自動的にそのポイントに照準を合わせるからだ。

[21] この地点にマークポイントを作成し、CDU データベースに保存することもできる。HOTAS TMS RIGHT（ショート）コマンドか、左 CTRL+→を押せば、マークポイント「A」が作成される。

[22] これで AN/AAQ-28 LITENING- II ターゲティング・ポッドの訓練飛行を終わる。

このままターゲティング・ポッドの練習を続けてもいいぞ。